

TR-I-0263

話者適応化および話者個人性の研究

A Study of Speaker Adaptation and Speaker
Individuality

服部 浩明
Hiroaki HATTORI

1992.5

Abstract

筆者が1889年5月8日から1992年4月30日まで、ATR自動翻訳電話研究所で行なった話者適応化方式および話者の個人性に関する研究発表を集めた報告書である。本報告書は、話者による時系列の異なりに対処するための複数標準話者をもちいたHMM学習方式、時系列の類似性による複数話者への重み付きHMM学習方式、少数語彙による適応化のための移動ベクトル場平滑化による話者適応方式、統計的手法による話者の個人性のモデル化および話者適応への応用、ニューラルネットワークによる個人性のモデル化および話者認識への応用について述べている。

©ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

©ATR 自動翻訳研究所

音声研究会

1. 服部浩明, 中村哲, 鹿野清宏: “話者重畳型 HMM による文節認識,” 信学技報, SP89-90, pp.31-38 (1989.12). 1
2. 大倉計美, 服部浩明, 杉山雅英, 鹿野清宏: “コードブックマッピングを用いた雑音環境下での音声認識,” 信学技報, SP90-12, pp.25-32 (1990.6). 9
3. 服部浩明: “ニューラルネットワークを用いたテキスト独立な話者認識,” 信学技報, SP91-90, pp.71-78 (1992.03). 17

音響学会全国大会

1. 中村哲, 服部浩明, 鹿野清宏: “複数話者 HMM 学習を用いた話者適応化の音韻認識による評価,” 音学講論, 2-p-15, pp.159-160 (1989.10). 25
2. 服部浩明, 中村哲, 鹿野清宏: “話者適応における複数話者への重み付け,” 音学講論, 2-3-1, pp.51-52 (1990.03). 27
3. 服部浩明, 嵯峨山茂樹: “コード遷移確率に基づく学習データ重み付けによる話者適応化,” 音学講論, 1-8-5, pp.29-30 (1990.09). 29
4. 服部浩明, 嵯峨山茂樹: “少量学習データを用いたコードブックマッピングによる話者適応化,” 音学講論, 1-5-23, pp.49-50 (1991.03). 31
5. 服部浩明, 嵯峨山茂樹: “少数語彙による移動ベクトル場平滑化話者適応方式の文節認識による評価,” 音学講論, 2-Q-15, (1992.03). 33

国際学会

1. H. Hattori, S. Nakamura, and K. Shikano: “Supplementation of HMM For Articulatory Variation in Speaker Adaptation,” ICASSP90, 3.6, pp.153-156 (1990.04). 35
2. H. Hattori, S. Nakamura, K. Shikano, and S. Sagayama: “Speaker Weighted Training of HMM Using Multiple Reference Speakers,” ICSLP90, 5.6, pp. 149-152, (1990,11). 39

3. H. Hattori: "Speaker Adaptation Based on Markov Modeling of Speakers in Speaker-Independent Speech Recognition," ICASSP91, 13.4, pp.845-848 (1991.05).43
4. H. Hattori: "Tex-Independent Speaker Recognition Using Neural Networks," to appear in Proc. ICASSP92 (San Francisco), (1992.03).47

学術論文

- (a) 中村哲, 服部浩明, 鹿野清宏: "話者重畳型 HMM を用いた日本語音韻認識における話者適応化の改善," 電子情報通信学会論文誌, D-II Vol. J73-D-II, No.12, pp.1919-1928 (1990.12).51